

# スピリチュアル物語

## 95話 by 魔女ともえ

この『スピリチュアル物語』は、BRIDGE USAさんよりお引越しました

### 魔女ともえ

ミステリースクールよりイニシエーションを受けた全米初の日本人魔女。チャネリング、白魔術、過去世リーディング、オーラ診断、浄化などを通じて、人々の幸せをサポート。ヘリと小型機のパイロット免許を持つユニーク魔女。

トランスマリOTT内スターボックス(要予約):1時間 \$70

メール相談:(要予約):majyotomoe@gmail.com \$22/1件(Paypal)



「この世には絶対の真実も大正解な死生観もなく、Body・Soul・Spiritにも限界は無い…」マジョリアルがマグワートの言葉を反芻すると、「無いことだらけだな」ウィザットが呟く。「そうじゃな。何も基準となるものが無い：限界が何処にあるのかも判らない…」マグワートの言葉に「ただか急に不安になってきたわ」困り顔のマジョリアル。「人は何故人間関係に悩むんじゃない？」マグワートが一見唐突と思える質問を投げ掛ける。「独りじゃ生きていけないからだろ？」ウィザットが当然という顔で応える。「それもあるが、人

は他者と関わることで、自分との共通点や相違点から基準となる絶対の真実や大正解な死生観を知ろうとしているのかも知れんぞ。基準イコール正しいという意味ではなく、目安としての基準じゃが「目安？」「そうじゃ。人は他者という存在からの距離を測ることで、自分が何者であるかを知ろうとしている訳じゃ。そして、基準となる他者からの距離が離れている場合にはそれを自己の個性と認識し、距離が近ければ他者と同調しているという安心感を持つ。しかし、人は適度な個性、場合によっては強烈な個性



がないと他者との差別化が自己の中で凶れないという焦燥感に襲われ、同時に、人と同じでない疎外感により不安が高じるという状態にもなる。人はそういういた矛盾した心理状態の中で、基準となる他者と自己との折り合いを付けねばならず、それが人間関係に投影され、悩みとして認識される訳じゃ」

★これまでのお話(1~94話)は魔女ともえのwebで読むことができます。

[www.majotomoe.com](http://www.majotomoe.com) 10月18日号につづく